

民主教育の推進と要求実現をめざして

市教組第12回定期大会を開催

さいたま市教組新聞

編集・発行/
さいたま市
教職員組合
〒330-0843
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2012.6.14(木)
No.193



さいたま市教組は、5月26日、見沼グリーンセンターで第12回定期大会を開催しました。参加した組合員からは、教育条件整備の充実を求める意見、再任用で働くが仕事量は変わらず収入は半減する矛盾への怒り、長時間過密労働の解消に向けた取り組みの必要性を強調する意見が出されました。

30人学級の実現を

改訂学習指導要領の実施で、子どもたちが学ぶことは格段に増えています。しかも全国学テなど競争を強いられている状況です。国立教育政策研究所は今年の3月、学級の人数が20人から30人でないと見渡せない、40人では教室がシーンとなる瞬間がない等、学級規模が少ない方が教育効果が上がるといって研究結果を報告しています。朝日新聞の記事にもなりました。

【解説】
再任用はフルタイムの他に次の短時間勤務があ

たレポートはホームページでダウンロードできます。さいたま市でも30人学級を実現させましょう。

給料半減の再任用

事務職で再任用になりました。定年前と仕事の内容と量は同じです。ところが給料表は3級から2級に格下げで年額64万円削減されました。ボーナスなどを入れると年間100万円少なくなりま

す。教員の場合はフルタイムの勤務を求められています。退職共済年金と老齢基礎年金が満額支給される65歳まで働くのはとても無理です。

長時間労働の解消を

長時間過密労働は一向に解消されません。市教委は業務の精選をしません。研究委嘱の削減も学校に押しつけるだけです。市教委と校長は教職員の勤務の始業と終業時間を把握する義務があります。が、いまだ着手していません。今、教職員に勤務時間の自己管理を促そうとしていますが、教職員に責任転嫁させてはなりません。起動に時間が掛かる校務端末への入力では退勤時間が延びるだけです。タイムカードの導入を強く求めます。

【解説】
教諭、養護教諭は残業手当がありません。条例でも本来残業がありません。認められているのは生徒の実習に関する業務、学校行事に関する業務、職員会議に関する業務、非常災害等やむを得ない場合に必要業務となっていて、しかも重要なものはこれらが臨時または緊急にやむを得ない場合にのみ認められることです。月や年間の予定で初めから入っているのは該当しません。登



なくせ原発10・30大集会(2011・10・30福島県)

原発ゼロを求める

原発の再稼働に反対し原発ゼロを求める運動を推進しましょう。さいたま市在住の被爆医師の肥田舜太郎さんは福島の子に口内炎や下痢が出ていること、子ども中心に内部被爆の影響がこれから年月をかけて出てくることを話しています。原子力は軍事と平和利用を分けて考えるのではなく表

若人に声をかけよう



職場で若い人に声をかけ組合に入ってもらいました。7月の夏休みに埼玉組が企画した福島の子を呼び思いっきり野外で遊んでもらう「のびっ子ツアーin埼玉」にも参加したいと話してくれました。若い人は「何かしたい」と思っています。声をかけましょう。

のびっ子ツアー in埼玉

放射能で思いっきり外で遊べない福島の子どもたちを招待します。

スタッフ募集中!!
カンパとりくみ中!!

7月30日、8月1日福島の子どもたちを嵐山に招待する組合主催嵐山町後援「のびっ子ツアーin埼玉」。

さいたま市教組第12回定期大会 大会宣言

今年3月、ある中学校の卒業式、答辞の一節です。

「ちょうど一年前に起きた東日本大震災による大きな被害、原発事故、復興への課題や、不況による雇用不安、将来の先行きが見えないことなどで、残念ながらとても人々が幸せと言える状況ではありません。こんな社会を私たちは変えていかなければならない……。」

また、入学式では、つい数週間前まで小学生だった生徒が、こう語りました。

「東日本大震災で多くの方々が亡くなられてしまいました。その中には、中学生になれなかった方もいると思います。そんな方達の方までも、精一杯、中学校生活を頑張っていきたいと思います。」

「今も被災された多くの方々が、もとの生活に戻れていません。私たちは地元で中学校生活を送れることのありがたさを感じ、勉強や運動に精一杯はげまなくてはならないと思います。」

子どもたちは、生きています。しっかりと生きていこうとしています。私たち教職員は、そんな子どもたちとともに仕事ができることを喜びとし、子どもたちの成長・発達に関わっていることを誇りしたいと思います。

私たち、さいたま市教職員組合は、そんな子どもたちの成長・発達を奪うものに反対し、子どもたちの可能性を開花させるためにがんばります。

子どもたちの笑顔と未来を確かなものにするために、私たちはまず、「原発ゼロ」を強く求めます。震災に伴う原発事故は、政府による原発依存のエネルギー政策が誤りであるだけでなく、その人類史的危険性を露呈させました。震災後一年数ヶ月、電力不足を口実とした原発再稼働の動きに反対し、原発依存のエネルギー政策の抜本的転換を求めます。

子どもたちの笑顔と未来を確かなものにするために、私たちは、競争と強制の教育に反対し、共同と共生の教育をめざします。子どもたちは、居場所と安心感を求めています。「ちょっと待って!」「まちがってもいい?」とつぶやいています。「教育とは2万%強制だ」と豪語する橋下大阪市長率いる大阪維新の会が大阪府で策定した「教育基本条例」の撤回を強く要求します。ことが起きると対症療法的にトップダウンで押し付けるさいたま市の教育に対峙し、真に子どもの側に立った教育の再生をめざします。

私たちは、子どもたちの生活を守ります。子どもの貧困と格差を広げる消費税増税には、きっぱりと反対します。

私たちは、教職員自身のゆとりある生活と自由を求めます。今、教職員は日々駆け足で仕事をしています。身を削り、心をすり減らして仕事をしている状況を改善しなければ、豊かな教育は成り立ちません。息苦しい管理と統制の職場ではなく、自由にものが言え、教職員が語り合い学び合える職場づくりを、各学校・各職場の声を聞き取りながら、めざします。

私たちさいたま市教職員組合は、「働きやすい職場づくり」「確かな学力とこどもの笑顔がいっぱいの学校づくり」「教職員の生活と権利が守られる環境づくり」のために、全力で奮闘します。急速に進む世代交代のなか、若い教職員を中心に仲間を増やします。各世代の良さを生かした組織をつくりまします。強固な連帯で結ばれた団結力のあるさいたま市教組をつくりまします。

厳しい現実の中に、確かな変革の芽があることに確信を持ち、ともにがんばりまします。

右、宣言します。

2012年5月26日

さいたま市教職員組合
第12回定期大会